

I. 「夏の学校」の報告

8月18～20日、北陸の白山で行われた。案内者は、守屋以智雄氏(金沢大)、小川弘司氏(金沢大・院・卒、現・叡明館高校)。守屋氏からは火山地形、階状土など、また、小川氏からは地すべり地形、崩壊地形の説明をうけた。寒冷地形関係については、白山の階状土は大半が残雪凹地内に存在し魚鱗状の配列をもつこと、古白山を中心とする首なしの凹型谷は氷河地形の可能性があること、などが討議された。今年は、残雪が非常に少なく、夏の白山の景観としては今ひとつであったが、全日晴天に恵まれ、日本最西端の高山を参加者全員が満喫した。

その他の参加者；水野一晴(北大・研)、石原篤(金沢大学)、高橋栄一(金沢大附属高)、梅津言葉(宮城・蟹沢高)、田村光穂(和歌山・城東中)、杉田久志(岩手・演習林)、鈴木由告(福生・郷土資料室)、長谷川裕彦(明治大・学)、戸田真夏(明治大・学)、清水長正(明治大・院)。

II. 10月例会のお知らせ

—10月12日(土) 14:30～
明治大学 大学院棟 2F 205
1) 小泉武栄氏：「黄河源流の自然」
2) 小嶋尚氏・岡沢修一氏・下川和夫氏：
「崑崙山脈の自然」

*今回はともに珍しい中国奥地のお話しです。

III. 北上山地の地形巡検について

前号で予告したとうり10月17～18日に北上山地で巡検が行われます(別紙参照)。参加申込、問い合わせは世話人の宮城豊彦氏(東北学院大)へ直接連絡して下さい。